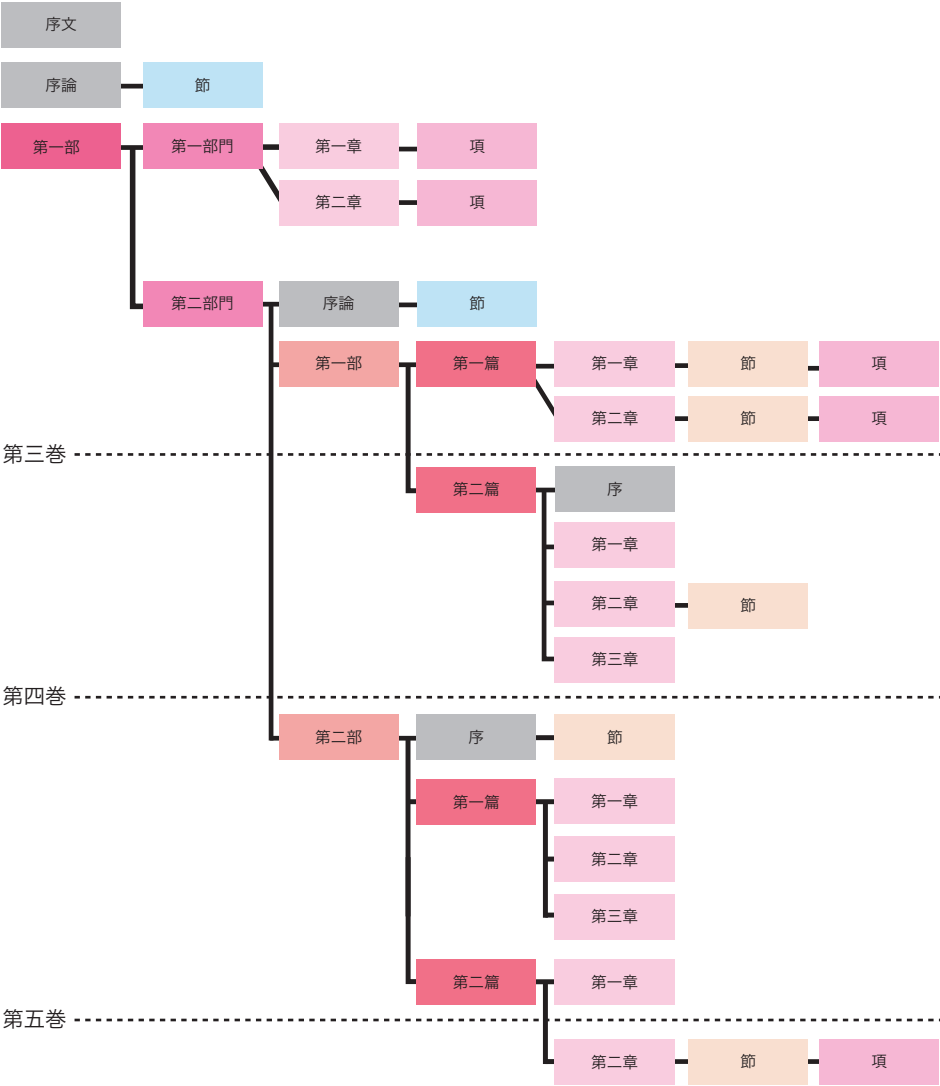


『純粋理性批判』 カント／中山 元・訳

タイトル・リスト 4 第五卷 [2011.05.15]

第一卷／第二卷



第五卷

第一部	超越論的な原理論
第二部門	超越論的な論理学
第二部門の第二部	超越論的な弁証論
第二篇	純粋理性の弁証論的な推論について
第二章	純粋な理性の二律背反
472	三つの弁証論的な推論の要約
473	唯心論の有利性
474	第二種の推論の難点
475	二つの隘路
476	世界概念と理性の理想
第一節	宇宙論的な理念の体系
477	理念の列举におけるカテゴリーの利用について
478	未来の時間の問題
479	背進的な総合と前進的な総合
480	空間における現象の絶対的な全体性の系列
481	物質の分割の系列
482	因果の系列
483	偶然的なものの現実存在の系列
484	四つの理念
485	絶対的な完全性の理念の目的
486	無条件的なものにいたる道
487	無条件的なものの二つの可能性
487n	理念としての系列の絶対的な全体
488	世界と自然
488n	形容詞的な自然と名詞的な自然
489	宇宙論的な理念の概念
第二節	純粋理性の対立論
490	対立論
491	弁証論の三つの問い
492	弁証論的な命題の二つの特徴
493	弁証論的な理論の矛盾の性格
494	競技の規則

495	懐疑的な方法の特徴
496	試金石としての懐疑的な方法
496n	二律背反の考察順序

純粋理性の二律背反
超越論的な理念の第一の抗争

定立命題 証明	反定立命題 証明
497 時間の端緒の存在証明	499 時間の無限性の証明
498 世界の完結	500 空間の無限性の証明
498n1 限界に囲まれている量	500n 経験の条件としての空間
498n2 全体性という概念	

第一の二律背反についての注解

定立命題についての注解	反定立命題についての注解
501 両方の議論の性格	505 空虚な空間と空虚な時間というノンセンス
502 無限の概念による証明	505n 空虚な空間の超越論的な可能性
503 無限の概念による別の証明	506 観智界を利用した議論の批判
503n 無限の数学的な概念	
504 空間の無限性の問題	

純粋理性の二律背反
超越論的な理念の第二の抗争

定立命題 証明	反定立命題 証明
507 背理法による証明	509 背理法による証明
508 単純なものの現実存在	510 〈単純なもの〉は超越論的な理念
	511 第二命題の意味

第二の二律背反についての注解

定立命題についての注解	反定立命題についての注解
512 この命題を空間と時間に適用する誤謬	514 モナド論による異議の批判
513 超越論的な原子論	515 〈わたし〉という実体についての 独断論的な主張

第五卷



純粋理性の二律背反
超越論的な理念の第三の抗争

定立命題 証明	反定立命題 証明
516 背理法による証明	518 超越論的な自由の逆説
517 超越論的な自由の証明	519 自然と超越論的な自由の違い

第三の二律背反についての注解

定立命題についての注解	反定立命題についての注解
520 超越論的な自由と絶対的な第一の端緒	522 第一の端緒は不要
521 〈第一の動者〉	523 自由と自然の背反

純粋理性の二律背反
超越論的な理念の第四の抗争

定立命題 証明	反定立命題 証明
524 因果関係による証明	525 世界の内部に存在するという想定
524n 時間と変化の関係	526 世界の外部に存在するという想定
	526n 「始める【アンファンゲン】」という語の意味

第四の二律背反についての注解

定立命題についての注解	反定立命題についての注解
527 宇宙論的な証明	532 証明すべき二つの点
528 世界の地位	533 定立命題と反定立命題の対称関係
529 必然的な存在者と世界系列	
530 他の類への飛躍	
531 経験的な偶然性と時間	



第三節 これらの抗争についての理性の関心

- 534 宇宙論的な理念の〈必然性〉
- 535 理性と数学の尊厳
- 536 理性の抗争
- 537 論争の参加者の姿勢について
- 538 経験論と独断論の論争
- 539 独断論の三つの「関心」
- 540 実践的な関心
- 541 思索にかかわる関心
- 542 通俗性という関心
- 543 反定立命題における道徳的・宗教的な関心の欠如
- 544 反定立命題の思索にかかわる関心
- 545 反定立命題の否定するもの
- 546 経験論の役割
- 547 経験論の過誤
- 548 プラトン哲学とエピクロス派の対立
- 548n エピクロスの主張したこと
- 549 エピクロス派とプラトン哲学の功罪
- 550 経験論の通俗性の欠如
- 551 体系を否定する経験論
- 552 公平な判断を求めて

第四節 必ず解決しなければならない純粋理性の超越論的な課題について

- 553 答えねばならない問いと答えられない問い
- 554 超越論的な哲学の責務
- 555 宇宙論的な理念の性格
- 555n 超越論的な対象についての問い
- 556 解きうる問題と解きえない問題
- 557 回避できない理性の四つの問い
- 558 絶対的な全体性の理念
- 559 批判的な解決

第五卷

第五節 全体で四つの超越論的な理念によって発生する宇宙論的な問題の懐疑的な考え方

- 560 下剤としての批判
- 561 二律背反が発生する理由
- 562 世界の端緒の問い
- 563 世界の限界の問い
- 564 単純なものの問い
- 565 自然法則への問い
- 566 自由への問い
- 567 絶対的に必然的なものへの問い
- 568 偶然的なものへの問い
- 569 過大と過小の判定基準
- 570 欺瞞の発見へ

第六節 宇宙論的な弁証論を解決するための鍵となる超越論的な観念論

- 571 超越論的な観念論とは
- 571n 形式的な観念論
- 572 経験的な観念論の主張
- 573 夢と現象
- 574 月の生物の「現実性」
- 575 現象の現実性
- 576 超越論的な客体と過去の意味
- 577 〈経験の進みゆき〉の規則と宇宙論的な理念

第七節 理性の宇宙論的な自己矛盾の批判的な解決

- 578 概念規定の是正の必要性
- 579 〈条件づけるもの〉の系列を背進する課題
- 580 条件の系列の全体性——物自体と現象の違い
- 581 理性推論の欺瞞
- 582 係争を解決する道
- 583 ゼノンの詭弁
- 584 対当関係と矛盾対当関係
- 585 弁証論的な対立
- 586 矛盾対当の消滅

- 587 他の三つの理念への適用
- 588 二律背反と現象の超越論的な観念性の証明
- 589 二律背反の効用

第八節 宇宙論的な理念についての純粋理性の統制的な原理

- 590 理性の統制的な原理とは
- 591 統制的な原理と構成的な原理の違い
- 592 完結しない系列の二つの呼び名
- 593 〈無限に〉と〈不定に〉の表現の区別について、〈前進〉の場合
- 594 〈背進〉の場合
- 595 不定への背進
- 596 二つの背進の比較
- 597 次節へのつなぎ

第九節 すべての宇宙論的な理念にたいして、
理性の統制的な原理を経験的に使用することについて

- 598 理性の課題
- 599 理性の原理の用途

第一項 宇宙論的な理念の解決——
さまざまな現象を合成して世界の全体とみる場合の合成の全体性について

- 600 理性の統制的な原理の根拠
- 601 経験的な背進の規則
- 602 解決の必要な問い
- 603 不定への背進としての経験的な背進
- 603n 経験的な背進と世界の大きさ
- 604 中間的な結論
- 605 第一の消極的な答え
- 606 消極的な答えの証明
- 606n 第一の二律背反の証明との違い
- 607 積極的な答え
- 608 背進の規則
- 609 世界と条件づけ
- 610 第一項の結論

第五卷



第二項 宇宙論的な理念の解決——
直観において与えられた全体を分割する際の分割の全体性について

- 611 分割は不定への背進ではない
- 612 空間は無限に分割できる
- 613 物体もまた無限に分割できる
- 614 物体が無限に分割できないという主張への反論
- 615 無限の分割の逆説

数学的な超越論的理念の解決のための結語と、力学的な超越論的理念の解決のための緒言

- 616 二律背反の原因と解決法
- 617 力学的な二律背反の特殊性
- 618 力学的な総合と〈異種的なもの〉
- 619 叡智的な異種の条件
- 620 力学的な理念と数学的な理念の違い
- 620n 叡智的な条件

第三項 宇宙論的な理念の解決——
世界の出来事をその原因から導く場合の全体性に関して



- 621 自然による原因の系列
- 622 自由と自発性
- 623 人間の感性的で自由な選択意志
- 624 実践的な自由とは
- 625 自由の問題についての超越論的な哲学の課題
- 626 自然と自由の和解

自由の原因性を、自然の必然性という普遍的な法則と和解させることができるか

- 627 叡智的な原因性と感性的な原因性
- 628 叡智的な性格の特徴
- 629 行為する主体の経験的な性格
- 630 行為する主体の叡智的な性格、自由と必然



普遍的な自然の必然性と結びつけられた自由という宇宙論的な理念の解明

- 631 超越論的な問題解決の道筋
- 632 自然法則の確認
- 633 問題の提起
- 634 根源的な行為の不可能性
- 635 根源的な作用の可能性
- 636 叡智的な存在者としての人間
- 637 理性の命法
- 638 〈すべきである〉と〈したい〉
- 639 理性の経験的な性格
- 640 行動の予測可能性
- 641 自然の秩序と実践の秩序
- 642 理性の経験的な性格と叡智的な性格
- 642n 人間の道徳性の認識
- 643 理性の原因と時間的な継起
- 644 純粋な理性の自由の特徴
- 645 悪意の嘘つきの実例
- 646 嘘と理性の支配
- 647 自由と必然性の両立可能性
- 648 自然と自由は矛盾しない

第四項 宇宙論的な理念の解決——
現象の現実存在一般という視点からみた現象の依存性の全体性について

- 649 必然的な存在者の存在
- 650 必然的な存在者の存在条件
- 651 力学的な背進の特徴
- 652 必然的な存在者と現象の系列
- 653 〈叡智的な存在者〉についての理性の統制的な原理
- 654 矛盾の解消
- 655 叡智的な根拠
- 656 叡智的な存在者と条件の系列の関係

純粋理性のすべての二律背反についての結論

- 657 叡智的な対象の認識方法